

# 2018年版 住みたい田舎ベストランキング

ほくとし きたきゆうしゅうし  
**1位** 山梨県 **北杜市** & **1位** 福岡県 **北九州市**

【総合部門】人口10万人未満 小さなまち

【総合部門】人口10万人以上 大きなまち

## 若者応援プロジェクト、生涯活躍のまちなど移住促進が決め手に！

ファッション雑誌販売部数トップシェア(※)の株式会社宝島社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:蓮見清一)が発行する月刊誌『田舎暮らしの本』は、2018年1月4日(木)発売の2月号で、「2018年版住みたい田舎ベストランキング」を発表します。

「住みたい田舎ベストランキング」は、2013年にスタートしました。今回は、移住支援策、自然の豊かさ、医療、子育て、災害リスク、移住者数などを含む194項目のアンケートを実施し、田舎暮らしの魅力を数値化。ランキング形式で紹介しています。国の「地方創生策」や地方自治体の「移住促進策」の盛り上がりを受け、本ランキングへの関心も高まっており、アンケートには前回は170以上も上回る過去最高671の市町村に回答いただきました。

第6回目を迎える今年も、ランキング方法をリニューアル。「自然が豊かなところで田舎暮らしを楽しみたい人」と、「都会の便利な暮らしも捨てがたい人」の双方のニーズに応えるため、人口10万人未満の「小さなまちランキング」と、人口10万人以上の「大きなまちランキング」の2つのカテゴリーに分けて、ランキングを発表。世代によって異なるニーズがあることから、全世代対象の【総合】ランキングのほか、【若者世代】【子育て世代】【シニア世代】の4部門に分けて1位を決定しました。

自治体の首長が移住促進を公約に掲げる市町村は上位にランクインする傾向があり、「小さなまち」総合1位となった北杜市(山梨県)は、平成27年度から「若者応援プロジェクト」などの総合戦略を具体化。移住希望者の就労支援も行っており、年代別の移住者数は30代が最多となりました。また、「大きなまち」総合1位の北九州市(福岡県)は、「生涯活躍のまち」としてモデルエリアを選定。2年後に65歳以上の人口がピークを迎える同市は、若者・子育て世代だけでなく、車がなくても暮らせる医療施設も充実した住宅地を整えるなど、シニア世代の移住も積極的にサポートしています。

ランキングを細分化したことにより、前年以上に各自治体の取り組みや実績、世代別の住みやすさが反映された結果となり、漠然と「田舎に移住をしたい」と考えている人が、自分の生活のニーズに合った田舎を探すうえで、参考となり得るランキングとなりました。

※ 日本ABC協会 雑誌発行社レポート2017年上半年(1~6月)より



『田舎暮らしの本』2月号  
2018年1月4日発売  
定価:800円(税込)

<p>小さなまち</p> <p><b>【総合部門】第1位</b> <b>北杜市</b> (山梨県)</p> <p><b>【若者世代部門】第1位</b> <b>臼杵市</b> (大分県)</p> <p><b>【子育て世代部門】第1位</b> <b>常陸太田市</b> (茨城県)</p> <p><b>【シニア世代部門】第1位</b> <b>辰野町</b> (長野県)</p>	<p>大きなまち</p> <p><b>【総合部門】【シニア世代部門】2冠達成!</b></p> <p><b>第1位</b> <b>北九州市</b> (福岡県)</p> <p><b>【若者世代部門】第1位</b> <b>栃木市</b> (栃木県)</p> <p><b>【子育て世代部門】第1位</b> <b>糸島市</b> (福岡県)</p>
--	--

※本ランキング情報掲載時は、宝島社『田舎暮らしの本』2月号、「2018年版 住みたい田舎ベストランキング」と必ずご明記ください。

# 各市町長からも喜びコメント、続々！

## 小さなまちランキング

人口10万人未満の自然に囲まれた田舎まち。  
アンケートに回答いただいた565市町村の「小さなまち」の中から、  
4部門のランキングを誌面にて、40位まで発表！

### 【総合部門】

#### 第1位 山梨県北杜市

ほくとし



多くの人に住んでみたい、  
住み続けたいと  
感じてもらえるまちに

渡辺美子 市長

山岳景観や名水、  
30代の移住が最多。  
若者や子育て世代を  
重点的にサポート！

「小さなまち」総合部門1位に選ばれたことを誇りに思うと同時に感謝申し上げます。育まれる多くの恵みのなかで子育て支援、働き方改革などを推進し、すべての人が健康で幸せにつながる「お宝いっぱい健幸北杜」を目指します。多くの方に北杜市を知っていただき、訪れていただき、住んでみたいなど感じていただければ幸いです。

### 【若者世代部門】

#### 第1位 大分県臼杵市

うすきし



臼杵の宝は人材  
個性あるさまざまな人びとの  
定住に期待します

中野五郎 市長

海・山・里の豊かさ  
と人の魅力が  
人をひきつけるまち

移住・定住促進を目指してきめ細かな施策を積み重ねてきました。特に若者の定住が課題でしたので「若者世代が住みたい田舎部門」で1位という結果は非常にうれしいです。諸施策を活用して、今後も多くの方にこのまちの新しい仲間となっていただけたらと思います。楽しく暮らしながら、一緒に素晴らしい臼杵をつくっていきましょう。

### 【子育て世代部門】

#### 第1位 茨城県常陸太田市

ひたちおおたし



「子育て上手」の成果を  
さらに進めていきます！

大久保太一 市長

北関東から突如としてランクイン！

「子育て上手」を  
掲げる市が  
きめ細かな支援策を  
実施中！

いち早く子育て支援に取り組んできた常陸太田市が第1位を受賞したことは誠に嬉しいことであり、私たちのやってきたことが間違いでなかったと実感しています。今年度からの10年計画では「幸せを感じ、暮らし続けたいと思うまち 常陸太田市～子育て上手その先へさらなる魅力の創造～」をキャッチフレーズに、さらなる向上を目指します。

### 【シニア世代部門】

#### 第1位 長野県辰野町

たつのまち



「ヒト・モノ・コト」を  
ワンストップでつなぐ移住支援

武居保男 町長

自分のペースで  
アクティブに  
草の根的な  
面白さに満ちた町

辰野町は日本のほぼ中央、首都圏と中京圏、どちらからも2～3時間という便利な場所に位置しています。自然豊かで、初夏にはゲンジボタルが乱舞する山紫水明の里としても知られています。町では「住み続けたい 帰りたい 住んでみたいまち たつの」を合言葉に、誰もが生涯健康で活躍できるまちづくりを進めています。「ヒト・モノ・コト」をワンストップでつなぎ、移住者の辰野暮らしを応援します。

今回は、人口10万人を境にランキングを2分しました。自然豊かなところで田舎暮らしを楽しみたい」という方は「小さなまちランキング」。「都会の便利な暮らしも捨てがたい」という方は「大きなまちランキング」を参考に、「田舎暮らし」を思い描いてみては？皆様の「住みたい田舎」探しの一助になることを願っております。



#### 『田舎暮らしの本』編集長 柳 順一 (やなぎ・じゅんいち)

1969年神戸市生まれ。1993年宝島社入社。  
『田舎暮らしの本』、パソコン本、『別冊宝島』  
などの編集部を経て2008年6月より現職に。

#### ◆『田舎暮らしの本』

『田舎暮らしの本』は、1987年に創刊した“日本で唯一”の田舎暮らしを紹介する月刊誌です。全国各地の物件情報や、田舎暮らしに必要なハウツーを紹介。お仕事情報など、実際の移住者レポートを交え、田舎暮らしに役立つ具体的な情報を発信しています。

2013年から毎年2月号で、「住みたい田舎ベストランキング」を発表。今年は、道府県庁、(公財)日本離島センター、移住・交流推進機構などの協力のもと、全国の市町村にアンケートを実施しました。

# 大きなまちランキング

人口10万人以上の生活に便利な地方都市。  
アンケートに回答いただいた106市の「大きなまち」の中から、  
4部門のランキングを20位まで、本誌で発表！

## 【総合部門】【シニア世代部門】

第1位 第1位 **福岡県北九州市**  
きたきゅうしゅうし



どの世代にも住みやすいまち  
移住を官民一体で応援します

北橋健治 市長

物価が安く  
インフラも充実  
人にやさしい  
地方都市の魅力

「大きなまち」の総合部門とシニア部門で第1位の評価、大変うれしく思います。北九州市は人口95万人の比較的大きな都市でありながら、物価も不動産も安く、豊かな自然にも囲まれた、どの世代にとっても住みやすいまちです。これからもU・Iターン就職支援や移住相談、お試し居住など、皆さまをしっかりと官民一体でサポートしていきます。北九州市へのお越しを心からお待ちしています。

## 【若者世代部門】

第1位 **栃木県栃木市**  
とちぎし



すべての世代に住みやすい  
まちづくりをさらに目指します

鈴木俊美 市長

若者、子育て世代への  
手厚い支援制度が自慢。  
地域おこし協力隊も  
活躍中！

昨年に続きよい結果が出たことを大変うれしく思います。栃木市は市町村合併してわずか8年ですが、ポテンシャルの高さを改めて知らせてくれました。2年連続で高順位をいただいたことは、まさに本物だと思います。特に今回は、総合、若者、子育て、シニアと、それぞれの部門で上位となり、すべての世代にとって住みやすいまちだということだと思います。私たちのまちづくりが間違っていないという自信につながりました。

## 【子育て世代部門】

第1位 **福岡県糸島市**  
いとしまし



大学の活力を生かし、  
子どもたちに学びの場を提供

月形祐二 市長

福岡空港や博多駅への  
利便性、  
子育て世代を応援する  
仕組みが充実

本市は隣接する福岡市への通勤・通学が便利でありながら、豊かな自然に囲まれた環境で子育てができます。また、九州大学と連携し、子どもたちに学びの楽しさを体験してもらう機会をつくるなど、大学の活力を教育にも生かしています。職・住・余暇が近く、新鮮な食材に恵まれた「糸島生活」に、皆様も満足いただけたと思います。

第1回から6年連続で  
ベスト3入り

**大分県豊後高田市**

ぶんごたかだし

「小さなまち」  
【総合部門】 2位

人気の移住地で支援策が  
さらにパワーアップ！

市内が一番にぎわっていた昭和30年代の町並みを再現した

「昭和の町」に年間40万人が訪れる豊後高田市。

市を挙げて移住促進に力を入れ、第1回から6年連続でベスト3入り。

田舎暮らし体験ツアーや空き家見学プログラムはもちろん、移住促進事業として無料の市営塾の運営や移住希望者のインターンシップ支援事業など独自の支援策を実施。2018年度は、さらにパワーアップ。高校生までの医療費無償化、小・中学校の給食費の無料化などの子育て支援が拡充。

## 2018年 第6回「住みたい田舎」ベストランキング 一挙公開！

- 小さなまち 各部門上位40位のランキング発表
- 大きなまち 各部門上位20位のランキング発表
- 移住希望者・要チェックのお役立ちランキング
- アンケート内容、参加市町村、ランキング分析
- 全国を12のエリアに分け、トップ5を発表！
- Pick Upとして取り上げた自治体の取り組みや魅力を紹介
- 2018年版「移住したい都道府県」ランキングも

ここも見どころ！



『田舎暮らしの本』2月号  
2018年1月4日発売 定価：800円(税込)